

《大学》

**神奈川工科大学**

**【体系的な全学就業力育成プログラムの構築】**

## 取組の概要【1 ページ以内】

本事業の取組は、全学的な教育改革に着手し「幅広い職業人養成の大学－職業人集団の中核的役割（リーダー）を担う人材－」の育成という本学の新たな教育観点に則ったものである。すなわち、教育基盤であるPBL教育（体験実践型創造性教育：ものづくり・協調性・リーダーシップ・対人基礎力、言語リテラシー、創造力・数的処理力・プレゼン能力）と、キャリア教育（社会人基礎力育成、職業観育成、就業力向上）を有機的に関連付け、広く学生たちが自ら社会的・職業的自立を具現化していくことを目的に実施するものである。取組の核は、ユニバーサルアクセス化に対応し得る大学教育カリキュラムの土台を構造化することにあり、以下6つの、明確な学習成果目標をもった科目群について新たに体系化を図る（クリティカル・シンキングを養う21世紀型教養教育は、以下のⅡとⅢを中心に行う）。

- I 初年次教育の新規導入<オリジナル教材・メソッドの開発>
- Ⅱ 人間力育成教育の新規導入<オリジナル教材・メソッドの開発>
- Ⅲ 言語教育の新規導入<オリジナル教材・メソッドの開発>
- Ⅳ キャリア開発教育の発展拡充（社会的・職業的自立に向けた指導教育）
- V PBL教育の発展拡充（テーマ型体験教育、課題型体験教育へ細分化）
- Ⅵ 専門基礎・専門教育の発展拡充

さらに、これらの教育群が効果的に機能するために、学習内容と有機的な繋がりをもつ学習ユニットを構成し、新たな教育手法を導入して、体系的な学習指導を具現化していく。

上記の取組を補完する要素として、以下の3点を学内インフラ（就業力支援インフラ）として構築し、積極的に運用推進する。

### 1. キャリアポートフォリオの構築

大学での活動を通して得られた具体的な成果、学生の成長度等について可視化する仕組みとして、ICT 技術を活用したキャリアポートフォリオを新たに導入する。学生が自ら学修目標・計画を設定し、学修成果や就業力成長を学生自ら確認できるようにし、学修の進捗度や生活等への助言、卒業後の進路の決定及び就職後の将来設計等も履修指導と関連付けて行う。

### 2. 成長度把握アセスメントの開発

人材育成目標に対して、各年次でどのように成長到達しているかを学生・教職員が共に把握するためのキャリアカテストを開発し施行する。これは、学生個々の学修方法や生活態度を改善していくPDC A学修指導に反映させる支援インフラとする。

### 3. インターンシップ学習機会の構造化

インターンシップは、学習した専門知識や技術が産業界にどのように活用されるのかを具体的に理解するとともに、実践的な能力を養うための就業力育成の機会でもある。このインターンシップの機会を拡充するために、企業・地域との連携スキームを構築強化し、構造的な産学協働学修の機会を作る。

以上、学長のリーダーシップの下に、教育目標である「考え、行動する人材の育成－社会で活躍できる人づくり－」に向け、全学就業力育成のための教育体系の基盤を整え、社会的・職業的自立と、新たな付加価値を持った職業人育成を目指して、取組を推進する。

《大学》

**産業能率大学**

**【四年一貫で真の就業力を育成する教育課程】**

## 取組の概要【1ページ以内】

大学教育を通じて、学生の就業に対する意識および資質能力を育成し、卒業後の社会的・職業的自立につながる就業力をしっかりと身につけさせることは、重要な課題である。

産業能率大学は、建学の精神のもと、マネジメントの思想と理念をきわめ、これを実践の場に移しうる能力と豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成することを目的としており、実学教育による「幅広い職業人の養成」に比重を置いて、教育課程を編成している。その中で、キャリア教育にも重点を置いており、教育課程内の正規科目としての1年次から3年次までのキャリア設計科目、企業でのインターンシップ、実務家による講義、資格取得支援科目等を設け、学生の卒業後の就業に関する指導・支援を行ってきた。

申請する取組のテーマは、これまでの指導・支援に加え、新たに卒業年次での指導・支援のあり方を探り、特に進路内定後の学習意欲の喚起、学士課程教育で培った力の保持・向上を図るとともに、職業生活への移行を支援する教育プログラムの産学協同による開発を行うものである。これにより、入学から卒業まで四年一貫で学生の就業力を育成する教育課程を構築し実践する教育改革に挑み、卒業後も職業人として自立し、自己のキャリアに対する意識を持って働き・学び続けることのできる「真の就業力」の育成を目指すものである。

「卒年次キャリア教育」に取組む背景として、企業の採用活動の早期化、厳しい雇用環境など昨今の社会情勢による学生の就職活動の早期化・長期化の現状があげられる。これは、学生の大学での学業にも影響を及ぼしており、大学3年次から就職活動を行う学生に対して、活動中だけでなく内定後の指導・支援も含めて卒業年次の教育を見直し、学生への指導・支援の一層の充実を図るなど、大学として対応が必要であると考えている。

具体的な取組の実施内容として、1)新しい時代の卒年次キャリア教育のあり方の検討と提言、2)卒年次キャリア支援科目の基本設計、プログラム・教材開発、運用検討、試験的導入を経て本格実施、3)実施の評価、成果の学外への公開を行う。

本取組は、学長の統括の下、本学の教育開発研究所に検討プロジェクトを設置し、全学的な協力体制のもとに進める。実施内容の1)については、企業の採用人材開発担当者等を交えたプロジェクトで検討し、2)では、学生の進路の状況に応じて柔軟にニーズに合った学習ができるよう、複数のメニューから選択することを想定しており、それぞれの内容・運営方法・教材を開発する。開発については、本学の同一法人内の社会人教育部門である総合研究所の研修開発セクションをはじめとする実務家の協力を得て産学協同で行う。実施段階では、他の科目も含めてカリキュラム全体を見直し、必要な修正・変更を行うとともに、低学年からの学生の意識付け、教員の研修会、FDの取組を行っていく。卒年次キャリア教育をこれまでの指導・支援に加えることにより、四年一貫で就業力を育成する教育課程を構築する。3)については、学生による評価、履修者の追跡評価、第三者評価委員会による評価、大学ホームページでの情報発信、レターの発行、シンポジウム開催を予定している。

本取組の達成目標は、①上記の3つの内容がすべて実施され、本格実施の段階では全学生が履修するしくみが整えられていること、②履修した学生の意欲と能力の維持・向上および卒業後の就業状況への貢献である。取組の評価については、学生へのアンケート調査、インタビュー調査、卒業生への追跡調査を行い、外部委員による評価を行う。

本取組の支援期間終了後も、得られた成果と課題を更なる改善につなげ、開発した教育プログラムを継続して実施し、学生の就業力の向上に活かしていくとともに、成果を積極的に公開し、他大学や高校でのキャリア教育にも役立つものとしたい。

《大学》

**昭和音楽大学**

**【キャリアマネジメント力を備えた音楽人育成】**

## キャリアマネジメント力を備えた音楽人育成

### ポートフォリオ活用のキャリア教育

#### 【取組の概要】

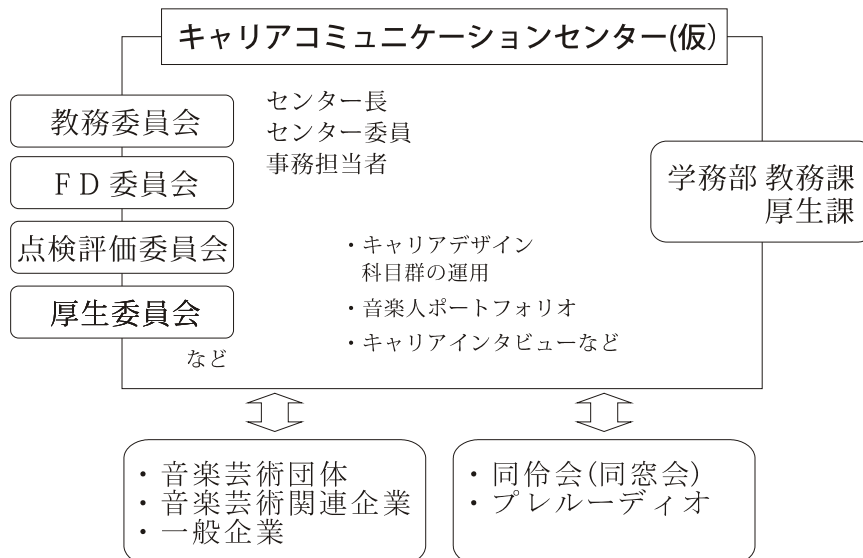
本取組は、建学の精神である「礼・節・技の人間教育」に則り、音楽大学の特性を活かし、幅広い視点で音楽を捉える力を育み、生涯にわたって多方面で活躍できるキャリアマネジメント力を持った「音楽人」を育成することを目指すものである。

これまで本学で実施してきた個々のキャリア関連科目や試みを一元化し、専門教育と連動した、体系的なキャリア教育をカリキュラムに組み入れ、人間力と学びの基礎力をつけ、学生自らが主体性を持って幅広い職業意識の向上を実現するための仕組みを整える。

2年次を「キャリア基盤形成」、3，4年次を「キャリア発展」の年次と位置付け、半期科目を中心に幅広い選択肢を設けて、音楽人ポートフォリオ作成やキャリアインタビューなどを組み合わせつつ、学生が段階的に自らの能力開発と目的意識の醸成を実現できるよう配慮し、キャリアマネジメント力を持った、自立した社会人（音楽人）を育成する。



#### 体系的なキャリア教育の実践



《大学》

**桐蔭横浜大学**

**【就業力の基礎となる「職域そうぞう力」育成】**

## 取組の概要【1ページ以内】

「就業力」として、これまで主に資格や面接スキル等の実践力や社会人力が重視されてきたが、本プログラムは、就業力育成において従来着目されてこなかった、学生の「**職域そうぞう力**」（「**職域想像力**」＝「多様な職域を自らの就業先として想定する力」と「**職域創造力**」＝「新たなニーズに呼応して仕事をクリエイトする力」）に焦点を当て、その育成を図ることを目的とし、そのための教育・支援プログラムを構築しようとするものである。

### 問題意識

今日、体育・スポーツ系学部学生の職域イメージと、社会のニーズ及び就業可能な職域との間には大きなギャップがある。スポーツに関連する社会的ニーズは、スポーツを通じた街づくりや国際協力、福祉や子育て支援、さらにはダンサー等のパフォーマーに対する身体ケアといったところにまで拡大し、就業可能な職域はあらゆる領域に広がりつつある。しかし、体育・スポーツ系学部で学ぶ学生の多くは、将来の職域として相変わらず体育教師とトレーナー程度しかイメージできておらず、このギャップが学生の就業可能性の幅を著しく狭めている。

### 2つの取組（P. 7 図1）

本プログラムは、とりわけ体育・スポーツ系学部学生については、上述のギャップを埋めることが就業力を高める前提として不可欠であると考え、「サービス・ラーニング実習」と「社会的企業創成プログラム」の2つの取組により、その解決を図る。前者はすでに職域として存在している様々な社会的活動への参加を通じて「**職域想像力**」＝「多様な職域を自らの就業先として想定できる力」の育成を目指し、後者はこれまでになかった社会的活動を構想し、学生自身がNPOあるいは社会的企業の立ち上げを体験することで「**職域創造力**」＝「新たなニーズに呼応して仕事をクリエイトする力」を育成することを目指す。

#### ①「**職域想像力**」の育成を目指すサービス・ラーニング実習

学外の多様な受け入れ先で社会貢献活動に参加する体験型の教育プログラムである「サービス・ラーニング実習」は、社会性の涵養や「振り返り」による自己確認等を特徴とする。劇団やホームレス支援活動団体等、従来全く想定されてこなかった多様な受け入れ先での実習によって学生の「**職域想像力**」を育成し、新時代の要請に応えうる体育・スポーツ系学部の特色あるサービス・ラーニングを確立する。

#### ②「**職域創造力**」の育成を目指す社会的企業創成プログラム

これまで全く想定されてこなかったニーズや、未だ仕事や職業には至っていない潜在的ニーズに対して、NPO等の立ち上げを通して自ら仕事を作り出す力を育成する、社会的企業創成プログラムを構築する。学生、教員、地域のNPOや企業等が連携し、スポーツによる新たな社会貢献を視野に入れ、基礎調査→「社会的企業創成プロジェクト」科目開講→学生・教員の協働による社会的企業等の立ち上げというステップで展開する。

### 取組の目標

本プログラムを通して就業力の基礎となる「**職域想像・創造力**」を高める。その上で全学の就業支援セクションにおけるインターンシップ等の就業力育成の取組に効果的につなげ、学生の就業力を高める。また就業支援セクションが、今日の社会的要請に応えうるスポーツ領域の人材育成に資する就業支援を行うために必要な、人的・知的資源を形成することも視野に入れる。



《大学》

**東洋英和女学院大学**

**【「女子就業力」を伸ばす実学的専門教育】**

## 取組の概要【1ページ以内】

本学は人間科学と社会科学の専門科目を教養科目とともに配置し、少人数制のゼミを教育の基盤に据えてきた。このリベラルアーツ教育によって養われた学士力は、社会人基礎力や就業力の基礎を築いていた。しかし、近年の学生の質の変化や社会環境から、大学での学修をキャリア形成や社会での実践に応用するためには、リベラルアーツ教育と実学的専門教育の融合的教育プログラムの必要性があると判断し、また女性の就業の現状をよりよいものとするために、下記のような取組を実施する。

### 【ゼミのクラスを利用した継続的キャリア形成教育】

現在、1年次の授業「キャリア設計」からスタートするキャリア形成指導は、その後就職活動までの継続的指導体制がない。本取組では、2・3年次にもゼミのクラスを利用して継続的に指導を行い、各種授業科目で学んだことを学生自身のキャリア設計に反映させる。そのために、毎年、ゼミのクラス毎にキャリア・コンサルタントの講義を聴かせ、社会人基礎力テストを実施すること、自己分析・将来設計シートである「マイキャンパスライフ・シート」を書かせ、キャリアアドバイザーによるキャリア・コンサルティングを実施することがその要点である。

### 【「女子就業力」を主体的に考えさせる内容の授業を開講】

女性の就業に関する課題を考えるための授業として、現在は1年次の「女性学」、2年次の「キャリアデザインの為の実践的ワークショップ」が用意されている。本取組では、これに加えて2・3年次に、「ワークライフバランス」、「ジェンダー・ポジショニング」（注：4ページ計画2参照）に焦点をあてた「女子就業力」を主体的に考えさせる授業を新規開講する。そのほか、企業の次世代支援計画といったテーマにつき、企業から課題を募集してそれに応える課題研究型インターンシップなどを企画している。さらに、生涯学習センターに、女性が取得すると就業に有利な職能や資格に関する講座を設置し、他の授業科目やアカデミック・インターンシップと合わせて、「履修証明制度」講座を設置する。これは、社会人女性や子育て後に再就職を目指す女性に向けて開講するものであるが、同時に在学中の学生が履修可能な形で実施する。

### 【学内外に開かれたインターンシップなどの実学的専門科目の展開】

現在、一部の学部・学科のみで教育課程に組み込まれているアカデミック・インターンシップ（アカデミックな授業10回＋インターンオリエンテーション5回＋インターン実習）を、全学の希望する学生に対して、できるだけ履修できるように展開する。また、インターンシップの実践後、授業としてフォローアップ・ワークショップを履修させる。内容は、課題研究とキャリア・コンサルティングを組み合わせるもので、実践の成果発表や実務家からのフィードバックも内容に含める。こうした授業企画の実施に際し企業や各種団体との産学連携を深め、授業企画の評価や学生指導などについて、企業人や学外専門家と実学的専門教育を通じて連携をする。また、取組終了後も継続できる組織や仕組み作りを行う。

### 【学生のキャリア形成の取り組みのデータを電子化・共有化】

上記の取り組みで学生が作成する「マイキャンパスライフ・シート」などの自己分析や自己記録のシートや授業科目のレポートなど就業に関連する情報を蓄積する。これを本学独自の学生データベースを作成して電子化・共有化をはかり、コンサルティングにあたる教職員や外部アドバイザー間で連携的に指導できるようにする。